

教会パフォーマンス

今日のパフォーマンスは教会での唱歌の音育であった。最初、入ってきたときはとても緊張しているようであったが、歌っていくうちに少しずつ慣れてきたように見えたが、最後まで緊張していたのかもしれない。このパフォーマンスで一番感動したことは、やっぱり美香ちゃんの歌声だろう。あれだけの広い聖堂を1人の声で「鳴らす」ことができたのだ。美香ちゃんが歌っているとき、聖堂全体が響いて聴こえたのだ。言葉ではあまりうまく説明できないのだが、とてもじんわりと来るものがあった。ちなみに、書かれている人間のひいきでもなんでもありません(笑)。また、他のメンバーの方もよく練習されたみたいようで、とてもきれいな歌声で大成功をおさめることができたと思います。また機会があれば、今度は日本の教会で歌えたらいいですね。あと、ここの写真撮影には、1日「せんそく」カメラマンが活躍していたようだった(笑)。(なっば)

お散歩タイム・撮影会

St.John The Divine 教会でのパフォーマンスを終えた後は、お散歩と撮影会である。先ほど決めた班分けにしたがって、教会の前でお行儀良く整列して、メンバーの出るのを待った。ここで、メンバーをたまたま企画を提案。どこが誰の列だかを教えないで、メンバーが自分の班だと思おうところについてもらった。みんな、何のためらいもなく正解するメンバー。さすが、ニューヨーク5日間、毎日顔を合わせていればわかりますね。唯一、ぎょっとしたのが本田さん。なぜかといえば私が一番前に立っていたからである。おれだって博子ちゃん好きだもん。(笑)

各班ごとに近くの撮影会会場まで移動する。これが、「お散歩」である。班分けはただこの10分弱のために、10分以上かけて行われたのである(笑)。

撮影会会場は教会裏の公園。天気は絶好調。場所は屋外の緑多い公園。撮影者51名にメンバー8名。撮影時間は休憩含めて約2時間。これだけの条件をそろえた撮影会は、もうほとんどないであろうと思われる好条件の撮影会である。最初は、芝生の上にメンバーが並ぶ。背景にはさっきパフォーマンスをした教会が上のほうに見える。素晴らしいシチュエーションである。客も特に班分けされなく、全員で時間を長くという方向になったので、ますます撮りやすい。実際、メンバー一人に対し2、3人で撮影するというところもある。次は本陰の下でバックは公園の柵越しにレンガの建物が並ぶ街が見えるというも。客の動きによって、下手をすると撮影者が誰もいなくなってしまうこともある(苦笑)。実際、私も私がいなくなったら本当に誰もいなくなってしまう状況になって、離れられなくなったこともしばしば。なにもみんな混んでいるところに回まわってなくてもねえ。最後は池の前のベンチに座っているポーズ。池とベンチの間の小道に撮影者は回まわることとなる。油断すれば地にボチャリだが、さすがに落ちた人はいなかった。ここは太陽の下の逆光であるため、ポートレートを撮るには絶好のロケーション。手のかけ方や足の組方などいろいろポーズがとれる。なかには、「ベンチに寝て」というとんでもない声もあがったが、そのまま実行してしまう音藤さんには感謝の意を念じてやまない。好条件の撮影会で、最終日ということもありメンバーと客も慣れきっているため、和やかなうちに終了した。みんなの写真のでき上がりが、とても楽しみである。(ちろ)

フェアウェルパーティ

いよいよ NY ツアーの最後を締めくくるイベント「フェアウェルパーティ」です。初日のディナーパーティとは違って、お客さんのテーブルにはお客さんのみがつき、メンバーはメンバーだけで単独のテーブルにつくという配置。メンバーと話ができなくて残念という人もいましたが、最後までいろいろな邪魔されない状態で料理を食べさせてあげなきゃね。で、進行はこんな感じです。

- <mc01> 本田
- <M01> 絆の我が家 (vo)橋本、松井、本田、音藤、宮田、菊地、井上、小林
- <M02> 浜辺の歌 (vo)松井、橋本、菊地、井上
- <M03> 故郷 - ふるさと - (vo)本田、橋本、音藤、井上
- <突然コーナー>
- <M04> わかるといいね (vo)橋本、小林
- <M05> 燃えない心 (vo)松井 (da)本田、音藤、橋本、宮田
- <M06> 若き智恵を讃えた天使たちの詩 (vo)松井 (da)音藤、本田、宮田、橋本
- <お客さんの感想コーナー>
- <M07> 愛と勇気と思いやり (vo)橋本、本田、菊地 (da)小林、宮田、井上、音藤
- <M08> 少年よ大志を抱け (vo)菊地 (da)宮田、音藤、橋本、本田、井上
- <M09> テスト (vo)小林 (da)井上、橋本、音藤
- <M10> 初恋にサヨウナラ (vo)井上 (ch)菊地、音藤、橋本
- <M11> 恋愛知識説 (vo)菊地、橋本、音藤、井上
- <M12> ダンシングセブンティーン (vo)橋本 (ch)音藤、菊地
- <M13> 涙のエンブレム (vo)橋本 (da)本田、菊地、音藤、小林、井上、宮田
- <M14> いつものように (vo)音藤 (ch)橋本、井上 (da)松井、本田、菊地、小林
- <ニューヨークの感想>
- <M15> 地球に愛を (vo)音藤、本田、井上、菊地、橋本 (da)小林、宮田
- <M16> さよならは出逢いの明日へのしるし (vo)松井 (da)宮田、音藤、本田、橋本
- <M17> 終章 - エピローグ - (vo)菊地、宮田、橋本、本田、井上、音藤、小林、松井
- <mc02> 本田

メンバーからの一言

= 本田博子ちゃん =

NYまで来てくれてありがとうございます。今度皆さんが、フアンの方で行くときは、ついていきたいな。



NEWYORK SKI TIMES
1997年8月31日発行
発行人：拡声器
発行所：530号室
寄稿、写真：ちろ、なっば、拡声器



「突然コーナー」では各メンバーが NY に来てみて「わかったこと」「しどかしたこと」を語るコーナー。小林「NYは電気とか明るくて派手だと思ってたけど、建物一つ一つが芸術的」「ライブの前に部屋で寝たら寝坊した」松井「街を歩いていてあいさつするとちゃんと返してくれる」「同室の美香さんがスパッツとタンクトップ姿でお菓子を食べてたら、トイレから黒人男性(実はトイレ清掃の人)が出てきた」井上「英語を話さなくても通じる」「部屋にあったゲームを、お金がかかると知らずにやってしまった」宮田「こっちは人は背が小さい」と若いと思うらしい」「コーヒーメーカーに水を入れ過ぎて溢らせてしまった」菊地「どこに行っても寒い」「衣装のハカマの片側に両脚突っ込んでステージに出た」音藤「タクシーの運転が荒い」「部屋のベッドがダブルとシングルだということに前日まで気付かなかった」橋本「NYは全然怖くない」「目覚まし時間をセットし間違えてあせった」本田「一日の半分飛行機の中なのに、そんなに時間がかかったと感じない」「ナイキタウンで入らぶつかった」「Sorry」と言ったら、日本人だった。次のコーナー「お客さんの感想コーナー」では、まずはお客さんの感想が整理番号順に延々と続きました。初めて名前を認識した人や、初めてメンバーに本名を知られた人など(苦笑)いろいろの人がいたようですが、かなり多くの人が「海外は初めて」ということで、多様な驚きに満ちていました。ちなみに進行はメンバー4人ずつが前後半に分かれて行ないました。前半は「井上、音藤、菊地、本田」後半は「宮田、橋本、松井、小林」でした。進行役じゃないメンバーはその間に食事をとっていました。その後メンバーが東京に帰って話を話しました。井上「豆乳が飲みたい。牛乳でも」音藤「お父さんとお母さんの間で寝たい」橋本「家で飼っていたの、そんなに時間がかかったと感じない」菊地「締玉ご飯が食べたい」本田「ジュディに会いたい」宮田「家のベッドで寝たい」松井「烏龍茶が飲みたい」小林「おばあちゃんに会いたい。その後の「<M09> テスト」のときに松井が出てこないで不安に思っていた人が多かったようですが、後に鼻血が出たためということがわかってちょっと安心(?) 最後の「NYの感想」は、小林「日本ではできない外人との会話などができて素晴らしい」菊地「時間が過ぎりたけど、みなさんと一緒にいたときに楽しかった」音藤「NY行きは迷ったけど来てみたら楽しかった」本田「自分がどう変わるか楽しかったです。何事も体験で、みんなががんばってできた」井上「一生懸命練習した唱歌が外人に良かったと言われて嬉しかった。The Cooler ではすごく声が出て気持ちよかった」宮田「最初は早く帰りたいと思ってたけど、思い出してみようという感じが良かったと感じた」松井「旅行に行くに必ず体調崩してしまうので心残り。でも楽しかった」橋本「初めての海外旅行が NY ですすごく良かった。日本と違った NY の一面が見られて、いい体験ができた。歌の方はパーティの雰囲気に合わせて、ファンさんも特に騒いだりせず、比較的落ち着いた感じができました。食べながら聞いていたからというのがありますけどね。ファンさんが食べる姿を見て羨ましがってメンバーもいたようです(笑) すべてがステージが終了した後、握手会です。菊地、宮田、井上、橋本、小林、音藤、松井、本田の順(だった?)に握手をして退場という形で行われました。いろいろと話もあったでしょうがなにぶん結構な時間になっていたもので、あまりしゃべれない人もいたようです。このNY公演の集大成、博子ちゃんも涙をこらえながら必死に笑顔で応えようとしている姿に、ロクな言葉もかけてやれませんでした。やっぱり一生懸命練習したんだろし、すごいことをやり遂げたんだから、思わず涙が込み上げてくるのもやむを得ないでしょう。ともあれ、SKI 史上最大のイベントを締めくくるに相応しいパーティだったと思います。(大島健太)

おまけ フェアウェルコンサートが終わった。感動の握手会が終わった。あとは日本に帰るだけ。そういえば、日本はそろそろの皆さんのピクニックをやっているはずだな。国際電話というものも体験しておくか。と言うことで、日本の携帯電話に電話してみた。まずはおとと。うむ、呼び出すけど出ない。次はHIDEだ。「もしもし、ちろです。しどう?」「HIDEです。しのはあいかわらずだよ。チョット待って。代わるから」「ちろさんなんてニューヨークなんているんですか?」「ショックのあまり、あとの愛ちゃんとの会話は覚えていない。(ちろ)

関係者からの一言 = サエキケンゾウ =		今日の予定
すごくまうきました。SKIがインターナショナルを見てのがよくわかりました。		10:00 荷造り完了 10:50 ロビー集合 11:00 ホテル出発 14:00 J F K 空港発

リーダー就任1周年

本田博子ちゃんが昨年9月1日にSKI 4代目リーダーに就任してから1年が経ちました。その間携帯電話使用に関する条例化運動、ポイ捨て禁止及び歩行喫煙禁止活動などさまざまな社会活動に参加するSKIの中心となって活躍されて来られました。これらの1つ1つの積み重ねが、今回のNY公演の開催に繋がったと思います。このNY公演の成功が、リーダー就任1周年という記念日への何よりももの贈り物になるでしょう。博子ちゃん、本当におめでとう。最後に、このお祝いの言葉を伝える機会を作っていた和田さん及びスタッフの皆さん、ありがとうございました。(拡声器) 博子ちゃんからのメッセージ「どうもありがとうございます。今年もまた私がリーダーをやらせてもらうので、一生懸命頑張りますので応援してください」

